

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスほのか		
○保護者評価実施期間	2024年 9月 9日 ～ 2024年 9月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0 (回答者数)	0
○従業者評価実施期間	2024年 9月 9日 ～ 2024年 9月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 10月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子ども・保護者のニーズや課題を客観的に分析し、計画書を作成する。計画書は職員に共有され、計画に沿った支援が行われている。	アセスメント・モニタリングを適切に行う。職員は計画書について、内容の共有や内容の更新の必要等話し合う。保護者様にはその都度、更なる変更や追記がないか確認して頂き計画書を作成する。職員は計画書の内容を再度確認し、支援に当たる。支援実施後の様子の検証をミーティングで行い、改善すべき事項がないか確認している。	積極的に保護者様との面談を行い、学校・家庭での様子やニーズ等を聞く。総括的な内容を保護者様と共有する。支援を行う中での気づき「成果」や「新たな課題」を職員で話し合い、支援の方法等の振り返りし、改善や課題への取り組みを話し合う。保護者様と話し合いの結果を共有し、計画・支援へと結びつける。
2	「子どもが自己選択できるような」、「自己決定をする力を育てる」為の支援の工夫をしている。子どもにわかりやすく構造された環境になっている。	個別のスケジュールカードを用い、「選べる」「意思の表出ができる」よう取り組んでいる。カードを認識するのが難しい子どもには、「選ぶことができるんだ」「気持ちを伝えるとわかってくれるんだ」と安心できるように寄り添った支援をしている。自由に活動できる場所、静かに休養できる場所、集中して学習できる場所を分けている。	個々の特性や嗜好、成長によって提示するカードが変わる。カードを作成する作業の為の時間を作る。子どもたちの理解度や満足度を常に探り、改善していく。段差の解消の問題がある。入口の2段の階段は車いすごと入ることはできるが、移動に職員の介助は必須。車いす使用可能なトイレは事務所にあり、介助は必須。
3	H P、S N Sを活用し、定期的な通信や情報の発信をしている。	定期的な発信に力を入れている。活動の内容や子どもの様子。行事等はH Pブログ欄で情報を送っている。特に個人情報に留意して発信している。職員2名と保護者様でのグループL I N Eを使い、個々の連絡、情報の共有をしている。	定期的な発信等、全ての保護者様に見て頂きたい。H PのQ Rコードを再度通知する。利用者様全員に一齐に連絡ができるよう、緊急時の発信の方法を模索している。(公式L I N E等)

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童が過ごすスペースが適切であるか。 職員の配置数は適切であるか。	子どもの状況により全体が落ち着かない事がある。特にパニックをおこした子どもと他の子どもとの距離を取ることが難しい場合がある。パニックをおこしている子どもに対応している間、他の子どもに「落ち着いて楽しく過ごしてもらう」支援にあたる職員が足りないと感じられることがある。	パニックを起こさぬよう、子どもの個々の特性を全員が「より深く理解する」室内、外等、臨機応変に子ども達が過ごせる場所を確保する。職員同士で全体の配置を気にかけておく。
2	第三者評価の機会が少ない。	パンデミック以来、第三者評価の検討をすすめられていない。事業所内で定期的に書類に不備はないか？適切に保存されているか？支援の内容は計画書に沿っているか？安全対策はできているか？等のチェックはできている。	事業所内でのチェックはこれからも継続していく。第三者を招いての評価については引き続き法人内で検討していく。
3	各種マニュアルの整備と周知、発生を想定した訓練。	マニュアルの策定と職員間の周知のみとなっている。訓練は紙上のみ行っている。子どもを交えての訓練がなかなか上手く計画を立てられていないのが現状。保護者様には保護者会等で周知して頂く予定。	マニュアルの見直しができている。各分野の担当振り分けも更新する必要がある。ミーティングでマニュアルの見直し、発生を想定した実施訓練の計画を立て、実行したい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童デイサービスほのか						公表日	2024 年 10 月 30 日		
							利用児童数	0	回収数	0
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。								
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。								
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。								
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。								
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。								
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。								
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。								
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。								
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。								
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。								
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。								
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。								
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。								
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。								
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。								
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。								
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。								
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。								
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。								

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。					
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。					
	29	事業所の支援に満足していますか。					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイサービスほのか					公表日	2024 年 10 月 30 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	天気、気温、子どもの状況により、外での活動を取り入れている。室内では静かに過ごせる場所を常に作るようにしている。	子どもの状況により、全体に騒がしくなったり、おもちゃ等が散らかっていることがある。パニックを起こした子どもとの距離がとりづらい。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	6	職員の配置を全員で確認し、手薄な所がないように常に気を配っている。	子どもの状況により、1対1の職員配置が必要な場面が多くなれば子ども全員に平等に職員をつけることが難しい。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0 (無回答1)	絵カードや個々のスケジュール表を提示している。それにより見通しがつきやすくなっている子どもが増えてきた。	職員はスケジュールのカードを理解できる子どもが増えるよう、日々気にかけている。途切れることのないように常に意識したい。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	2	日々の室内清掃、消毒は欠かさず行っている。危険な物を置かず、安全な環境を整えている。	周辺に田んぼや空き地があり、害虫が来る。室内や外の遊び場の細かな点検が必要。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	2 (無回答1)	子どもの特性や状況によって過ごす場所を移動できるようにしている。	大きな物音や鳴き声があると場所を移動しても意味がない時がある。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	2 (無回答1)	PDCAサイクルを心掛けている。課題や改善点が見つかる度、話し合っている。	PDCAサイクルの意味を浸透させ、改善すべき事に対する考え方の順序等の仕組みを再学習していく必要がある。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0 (無回答1)	評価のまとめを職員全員に周知、話し合う時間を作っている。業務の改善についても少しずつ話合っている。	職員全員参加できる日がありなく、書面での確認に終わる事が多い。また職員全員の意見が100%聞けていない。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	月に1度は全員参加のミーティングを設けている。その結果は書面で残し、全員周知できている。	職員全員参加できる日がありなく、書面での確認に終わる事が多い。業務の改善等の周知はできているが、改善の行動の振り返りが少ない			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2 (無回答1)	第三者の評価の機会が少ない。	第三者の評価の機会を増やしていく。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	年、4～6度外部講師を招き研修会を開催している。	研修内容が業務の改善につながるようになっていきたい。			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	長期休みの行事、プログラムの作成はできている。通常のプログラムの作成は順次行っている。公表は主にHPのブログ欄に掲げている。	HPのバージョンアップを早くすすめたい。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	0	最低6ヶ月に1度はモニタリングを実施している。また、職員でのミーティング等により個々の子ども・保護者様に対して変化があった場合、計画書の変更、追加を保護者様に確認してもらい新しい計画書作成を行っている。	子ども本人、保護者様の考えやニーズを知るため、園や家庭での様子を詳しく聞きたい。対面での情報交換を行っていきたい。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	1	アセスメント・モニタリングを行い、職員で計画書について話し合う機会を持ち計画書の更新を行い保護者様に確認して頂いている。園、デイ、家庭での様子の変化等を話し合っている。	自宅送迎時、保護者様に「その日の様子や変化等をできるだけ詳しく伝える」「情報を記録する」を行ってきたい。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	1	作成された計画書の内容は職員全員に伝わるよう記録、確認してもらう。また、計画書に沿った支援実施後の様子の検証を行うミーティングを実施している。	園、他デイ、家庭と様子がちがう子どももいる為、共有をすすめていき、新たな課題を見つけ計画の見直しをする。			

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1 (無回答1)	利用時に個々の連絡帳へ様子を記載、控えを保存している。自宅送迎時に保護者様と対面で伝えている。普段の様子との変化があった場合等、朝のミーティングで話し合っている。	職員の経験の差や関わる際の対応の違いなどがあるため、どの職員も同じ支援ができるか、職員にあった支援の方法も考えていく必要がある。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	(無回答2)	全ての項目について計画書に記載している。また、朝のミーティングなどで出た子どもに対する情報に合わせて計画書の更新を実施している。その後、保護者様に確認して頂いている。	保護者様が感じている困りごとや気になる事等、また、子ども希望を常に確認しながら、ねらいや支援内容を決定していく事を続けていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	3	時間のあるかぎり職員全体で話し合っている。	常勤者が主に立案している。非常勤者の参加を増やす事が課題。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	3	子どもの特性や状況により、出来る事、難しい事を考え、皆が楽しんで参加できるように工夫している。	子どもの特性や状況により、プログラムが成り立たない事があり、どうしても「固定化」になってしまっている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	2 (無回答1)	個別の課題については計画書に記載している。集団活動についても計画書に記載。本人の意思を尊重して確認を行い参加の可否を決定している。	集団活動について、年齢にふさわしい、子ども達の様子に合ったものを考えている途中。また、「地域との交流で自立を目指す」お買い物等の体験を増やす事を目指している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	3	常勤者は毎朝のミーティングに参加。非常勤者には日報の集約を確認することで内容を共有し、支援の確認や連携をとっている。	打ち合わせ等、毎朝必ず行われている。チームで連携する為、非常勤者を含めた役割分担を考えていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	3	次の日の朝に常勤者のミーティングを行い、前日の振り返りや気づきを共有している。	支援終了後は清掃等の時間に充てている。その日の終了後は早急な課題を挙げ、次の日のミーティングで話し合う。これを継続していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	全職員の全ての記録を日報集約用紙に記入し、全員に周知できている。	記録をまとめるは徹底できているが、全ての事項の検証・改善にはつなげていない。
関係機関や保護者との連携	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0 (無回答1)	最低6ヶ月に1度は実施している。また、職員でのミーティング等により個々の子ども・保護者様に対して変化があった場合、計画書の変更、追加を保護者様に確認してもらい新しい計画書作成を行っている。	日々の様子の確認を続けていき、目標の達成度や様子の変化を計画書に反映させ、支援をおこなっていく。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0 (無回答1)	児発管が必ず出席している。	現場で主に担当している支援員も参加したいが、子どもを受け入れている時間帯と会議開催時間が重なり、参加できていない。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0 (無回答1)	体制を整えている。声がかかれば必ず会議等に出席している。	こちらからのアプローチが難しく、積極的ではない。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2 (無回答2)	利用者様がいないので今は何もできていないが、利用者様がいれば積極的に支援したい。	利用者様がいないので今は何もできていないが、利用者様がいれば積極的に支援したい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2 (無回答2)	利用者様がいないので今は何もできていないが、利用者様がいれば積極的に支援したい。	利用者様がいないので今は何もできていないが、利用者様がいれば積極的に支援したい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				

	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	3 (無回答1)	相談支援員（もず）様に相談したり助言をいただいたりしている。	特定の利用者様についての相談や助言のみになっている。こちらから積極的にアプローチしていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	5 (無回答1)	今のところなし。	交流の機会を作りたいが、方法が見つからない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	連絡帳のやりとりや送迎時に伝えあっている。モニタリングを定期的に行っている。	日々の状況がほとんどで、課題等深く話を掘り下げる時間をお互いに持ちたい。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3 (無回答1)	外部イベントの情報等のお知らせをしている。	事業所主催のイベントは保護者会のみとなっている。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0 (無回答1)	契約時に説明をしている。記載事項に変更の箇所が生じた場合は都度説明している。	説明に漏れないようにしたい。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	モニタリング時に保護者様の意向やご意見、相談や困りごとを聞き、職員で話し合う。追加の情報が必要な場合などに個人面談の機会を提案させて頂き実施している。	児発管、担当者、保護者様間のグループLINE等も活用しながら、迅速に保護者様の相談や助言等を行っていき、子ども本人の意向の沿った支援へとつなげていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0 (無回答1)	作成後は必ず同意を得ている。	5領域を含めた個別支援計画書となり、優先度の必要となっているので、本人の様子や保護者様の意向などを確認して優先度を決定していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0 (無回答1)	連絡帳のやりとり、送迎時、モニタリングを定期的に行っている。必要な時は面談している。	電話でのやりとりやLINEを使い、支援にあたっているが、「相談しやすい」「相談してみよう」と思われるようになる努力をする。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	2 (無回答1)	保護者会を開催している。「堺市手をつなぐ育成会」に参加させていただいた。	きょうだい同志の交流の機会を設けるのは難しい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0 (無回答1)	迅速に対応している。	管理者・児発管が迅速に対応している。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0 (無回答1)	定期的な発信では個人写真の投稿もあるが、皆でまとめた写真（写真編集あり）を加える等工夫している。	毎週活動しているので、週1枚は投稿していく。児童以外にも施設の事やスタッフの仕事内容等、「ほのか」を知ってもらえるような内容を加えていく必要がある。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	鍵のついた書庫に保存している。書類を破棄する際は必ずシュレッダーを使う。PCはPINコードを入力で開くようにしている。	走り書きのメモ等の扱いを慎重にしたい。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	ルビ入りの契約書、重要事項説明書を用意している。丁寧な会話をこころがけている。	言葉・文字と保護者様や利用児童に合わせ、伝達の方法を選び、丁寧な言葉使いや会話のスピードに注意を払いたい。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	0 (無回答1)	地域との問題はない。招待する機会はないが、声をかけられた場合は参加できる。	招待する機会を作ることは難しい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	3	マニュアルは策定できている。	マニュアルは策定できているが、検証、改善等に時間がない。職員には周知できているが、保護者様には周知できていない。定期的な訓練ができていない。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	3	BCPは策定できている。	BCPは策定できているが、検証、改善等に時間がない。職員には周知できているが、定期的な訓練ができていない。

非 常 時 等 の 対 応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	契約時、新年度時にモニタリングシートを配布し、保護者様に記入して頂いている。状況が変わる毎に情報をいただいている。	てんかん発作時などの対応を全ての職員で再共有する必要がある。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	契約時、新年度時にモニタリングシートを配布し、保護者様に記入して頂いている。状況が変わる毎に情報をいただいている。	全職員が非常時に確認できる方法を考える必要がある。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	安全計画は策定できている。社内研修やミーティングを実施している。	定期的な研修や訓練ができていない。計画し実行したい。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0 (無回答1)	緊急連絡先をいただいている。LINEで迅速に対応できるようにしている。	状況が変わる度安全計画を更新し、保護者様に周知していきたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	1	常勤者は毎朝のミーティングで。非常勤者には日報の集約を確認することで内容を共有し、方策を検討している。	P D C Aサイクルが上手くいかない時がある。P D C Aの意味を浸透させ、改善すべき事に対する考え方の順序等の仕組みを再学習していく必要がある。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0 (無回答1)	少なくとも年1回、外部講師を招き研修している。	これからも継続していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	0 (無回答1)	契約時に説明をしている。「どの行為があてはまるのか？」やむを得ず行った場合「どのような場面で？」「どのような方法で？」「どれくらいの時間？」行ったかの報告書を作成して保護者様に確認していただきます。個別支援計画書への記載も行います。常に子ども達に対して身体拘束を行わなくていい環境や対応を考えています。	子ども達が落ち着ける方法として視覚的な提示や声のかけかた、大人との関わり方等、対象となりうる子どもと関わる職員など総合して方法を考え、職員で共有していく必要がある。